

pure::variants - フィルタ/ソート機能

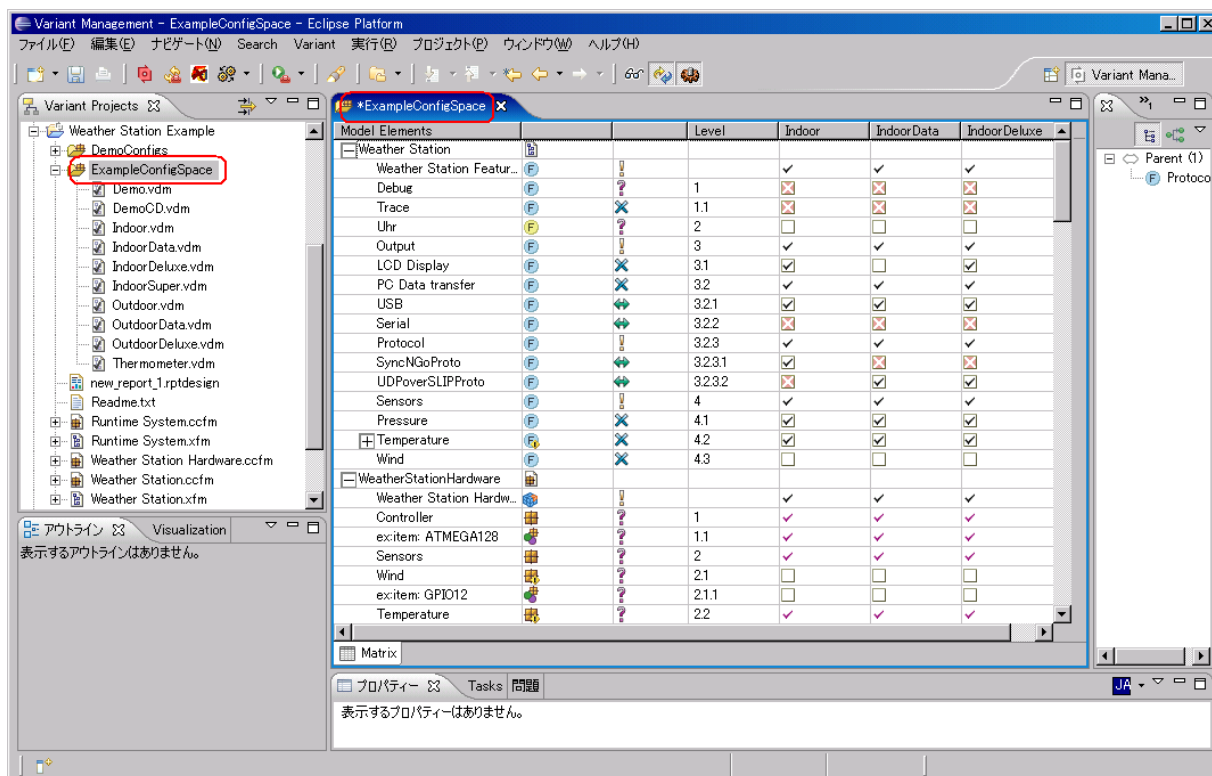
本資料は、コンフィグレーション・スペースを用いてバリエントを一覧表示させた場合の、フィルタ/ソート機能について記述しています。

以下 pure::variants のサンプルプロジェクト “Weather Station” を例にして紹介しています。

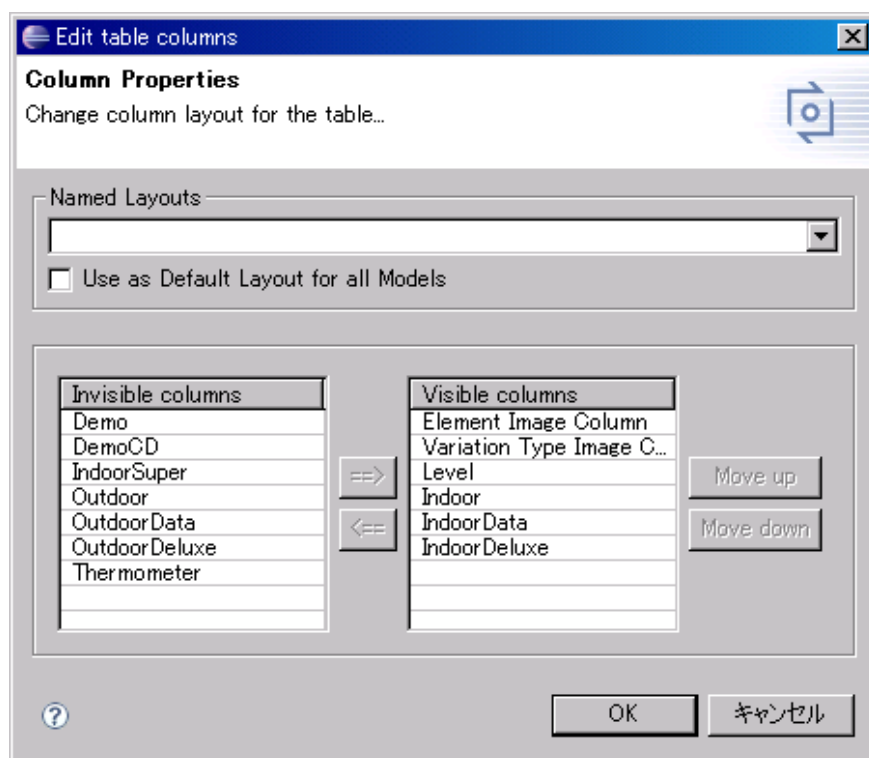
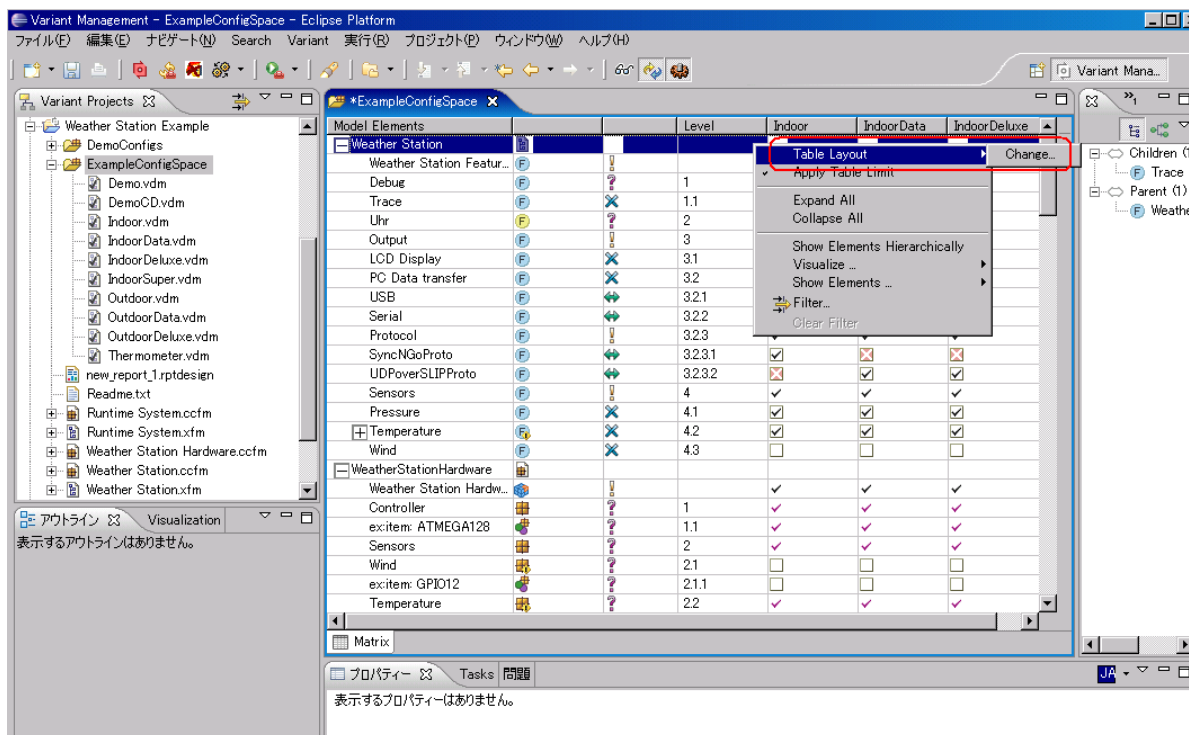
- ・ バリエントのフィルタ・ソート機能
- ・ モデルエレメントのフィルタ・ソート機能

1. バリエントのフィルタ・ソート機能

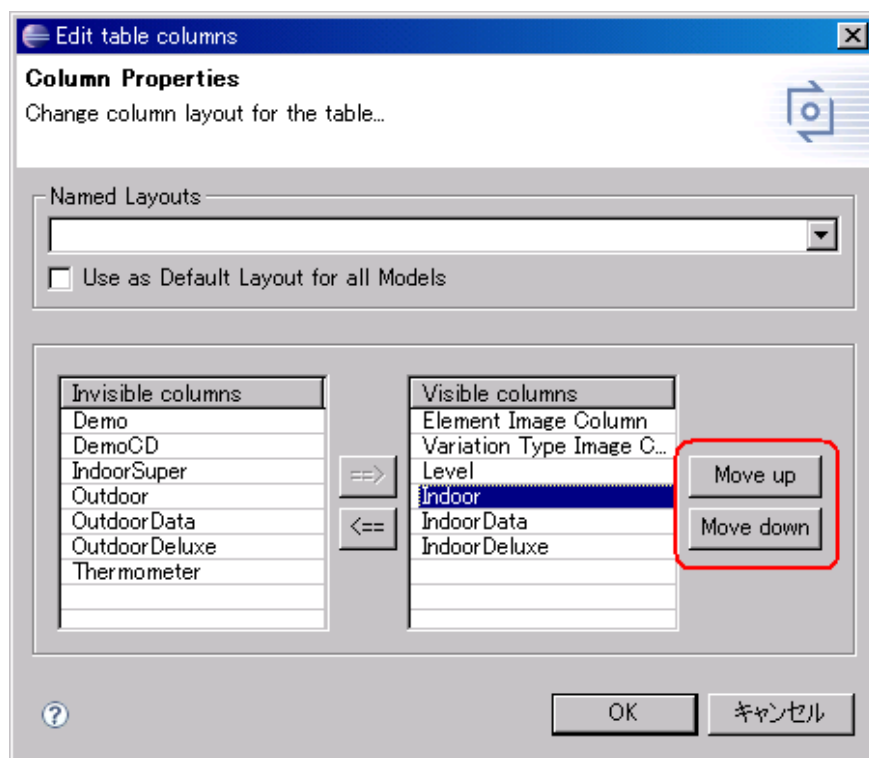
プロジェクトの “ExampleConfigSpace” をダブルクリックし、バリエント一覧表を開きます。



バリエント一覧表で右クリックし、“Table Layout -> Change” を選択すると、“Column Properties” ダイアログが開きます。

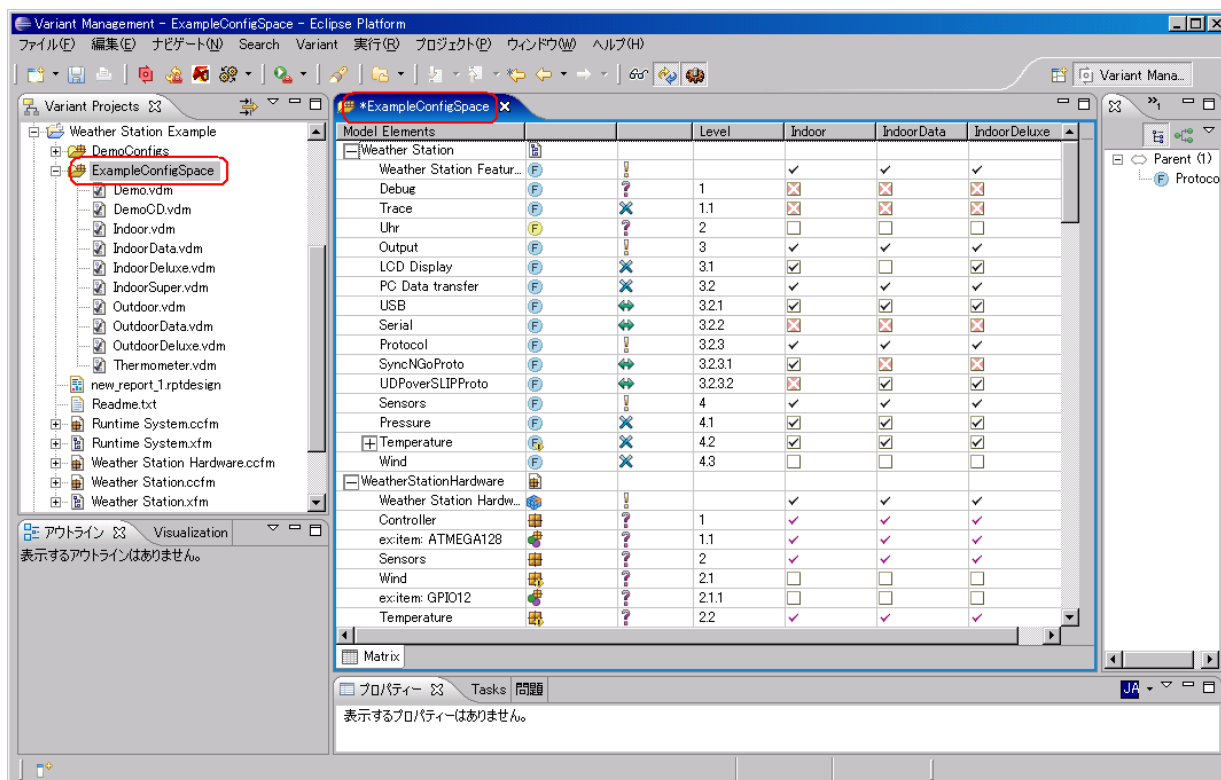


フィルタですが、非表示にしたいバリエントを左側“ Invisible columns (非表示)” へ、表示したいバリエントを右側“ Visible columns (表示)” へ移動します (移動は、中央の“<==”、“==>”で行います)。また、“Visible columns” 一覧でバリエントを選択し、“Move up”、“Move down” ボタンを使ってバリエントのソートを行います。

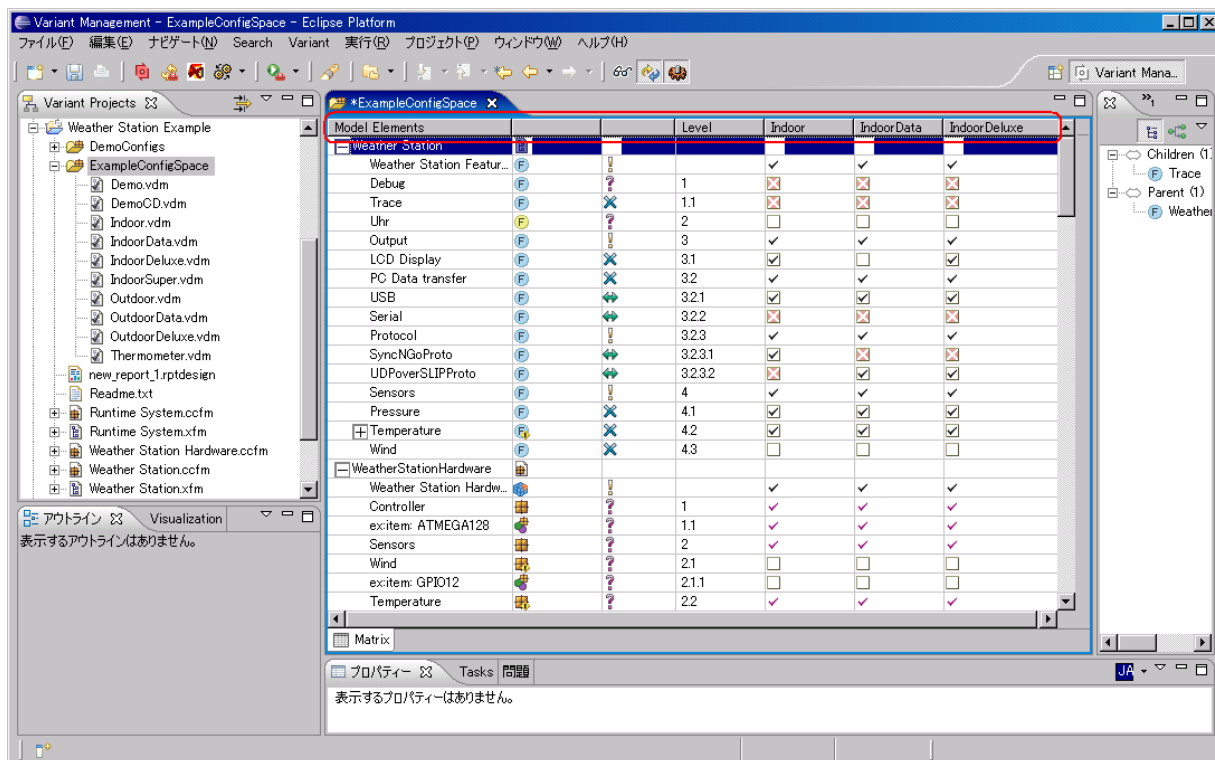


2. モデルエレメントのフィルタ・ソート機能

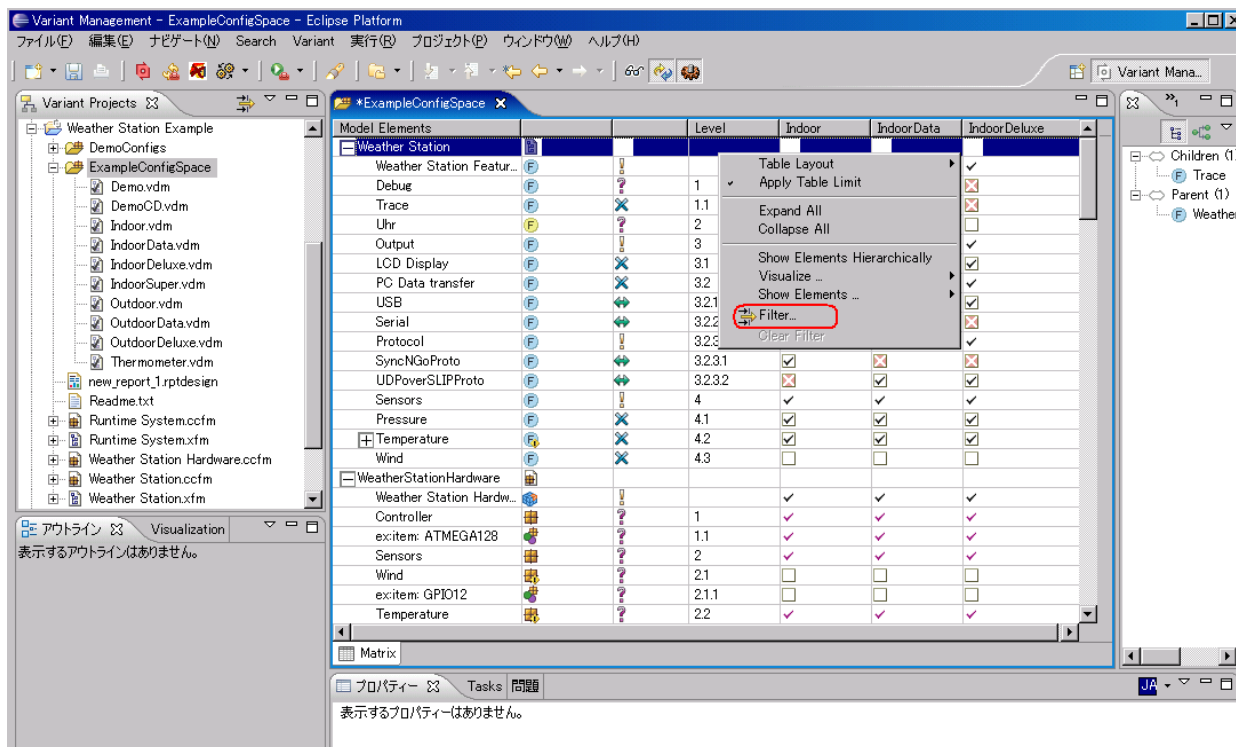
プロジェクトの“ExampleConfigSpace”をダブルクリックし、バリエント一覧表を開きます。



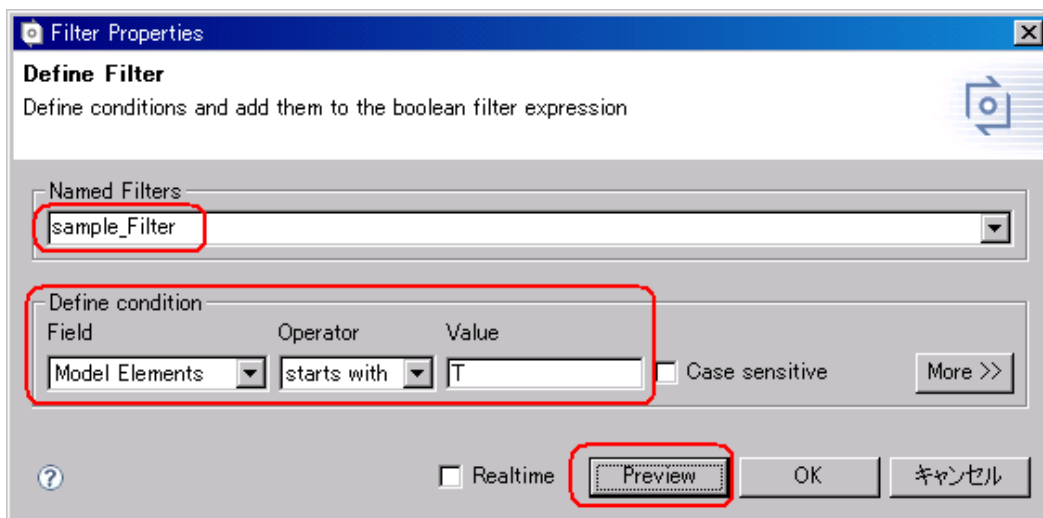
バリエント一覧の各タイトル部分（Model Elements、Level、バリエント名）をクリックすると、それぞれアルファベットや数字の順にソートされ、バリエント名をクリックするとフィーチャの選択／非選択でソートされます。



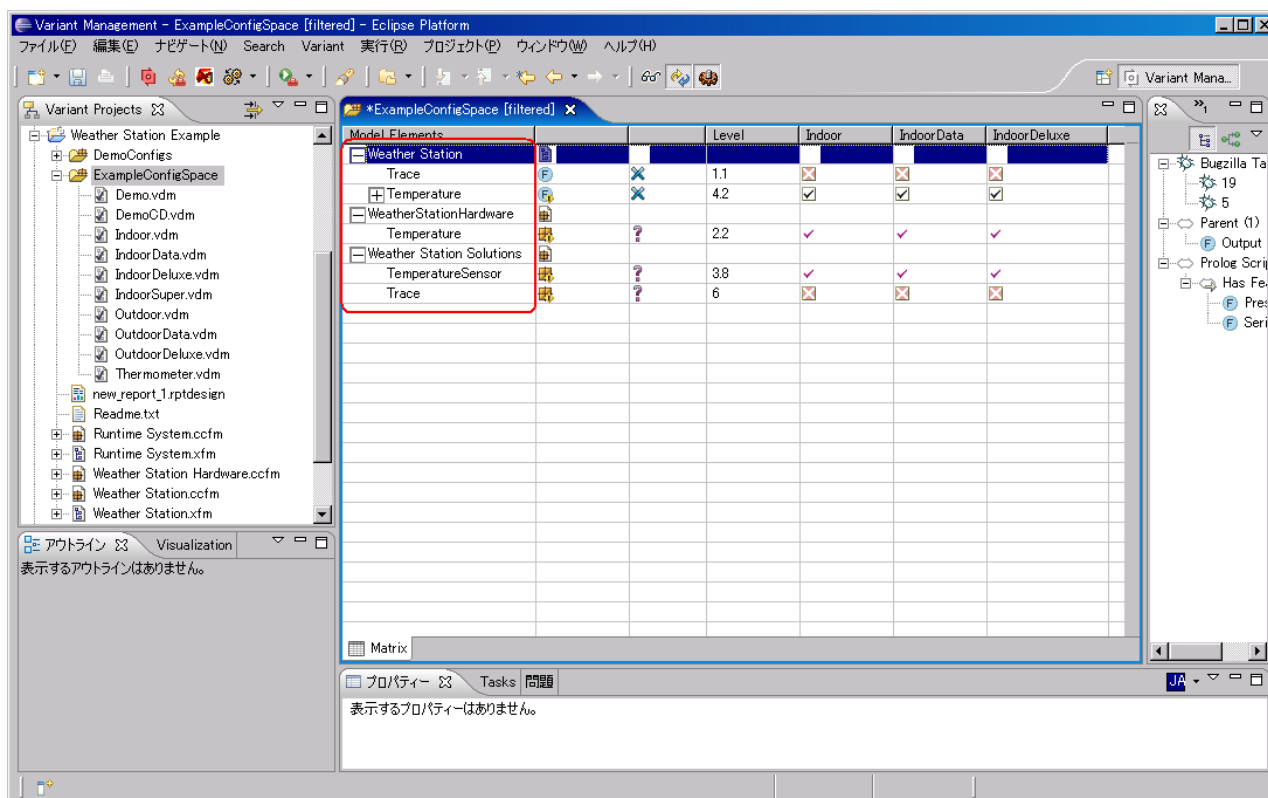
また、バリエント一覧で右クリックして“Filter”を選択すると、“Define Filter”ダイアログが開きます。



ダイアログでは、Field (Model Elements や Level など)、Operator (!=、==、matches)、Value (値) を設定することでフィルタが可能です。フィルタ設定に名前をつけて保存することも可能です。



上記でフィルタした結果は、下記のようになります (例 : Model Elements が、“T” で始まるもの)。



以上